

日本初の※「男性尿失禁外来」開始

※…本学及びボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社調べ

重度の尿漏れに“人工尿道括約筋植込術”で対応

【本件のポイント】

- 本学附属病院に専門外来（隔週土曜午前）を設置
- 薬物治療や行動療法で効果が出なかった患者さんに最適
- 概要や狙い、将来像など 1/7（月）16：00～記者会見で発表

学校法人 関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）附属病院（同市 病院長・澤田敏）は、日本で初めて※となる“男性の尿漏れ（以下、尿失禁）専門”の外来診療枠として「男性尿失禁外来」を設置しましたので、お知らせいたします。尿失禁とは自分の意思と関係なく尿が漏れることで、様々な原因がありますが、男性特有の病気である前立腺がんに対して行われることの多い前立腺全摘除術や、前立腺肥大症に対する手術を行った後で尿失禁が持続し、生活の質に大きな影響を及ぼすことがあります。この外来では、そうした男性特有の尿失禁に対する効果的な治療として、“人工尿道括約筋植込術（以下「尿漏れ手術」）”の実施と関係する診療を行います。



人工尿道括約筋「AMS800®」

また本学は、今回の「男性尿失禁外来」スタートに伴い、その概要と趣旨、今後の展開などについて下記の要領で記者発表を行います。当日は、実際に尿漏れ手術を経験した患者さんにもご登場いただき、治療効果を紹介する予定です。取材参加をご希望の場合は、次ページ取材申込書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてお申込みください。

会 見 概 要

日 時：	2019 年 1 月 7 日（月） 16：00～17：00
場 所：	関西医科大学（大阪府枚方市新町 2-5-1） 枚方学舎医学部棟 1F オープンラウンジ
出席予定者：	腎泌尿器外科学講座 木下 秀文病院教授（専門：前立腺疾患） 同講座 杉 素彦講師（男性尿失禁外来担当医） 人工尿道括約筋植込術経験者様 （氏名の公開は控えさせていただきます）
発表予定：	16：02 ご挨拶（木下病院教授） 16：10 概要ご説明（杉講師） 16：30 患者さん体験談ご発表 16：50 質疑応答

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田、畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2126 ファクス：072-804-2344 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

PRESS RELEASE



【関西医科大学 日本初「男性尿失禁外来」概要発表記者会見 参加申込書】

学校法人関西医科大学 広報戦略室 行

FAX 番号：072-804-2344

ご出席に際しては必要事項をご記入の上、
上記 FAX 番号宛に **2019 年 1 月 4 日（金）午後 5 時まで**にご返信ください。

日時：2019 年 1 月 7 日（月）午後 4 時～

場所：学校法人関西医科大学 枚方学舎 1 階 オープンラウンジ

〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1

貴社名：

御所属：

御芳名：

媒体名：

御連絡先：

電話：

FAX：

Email：

※会場に駐車場のご用意はございません。恐れ入りますが取材車両は近隣の民間駐車場をご利用ください。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田、畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2126 ファクス：072-804-2344 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

別 添 資 料

■「尿失禁」とは

男性・女性ともに年齢を重ねるごとに尿失禁の頻度が高くなっていきます。成人用のおむつや失禁パンツが数多く販売されています。特に女性に多く、国内の研究では 40～50 代の女性の 2～3 人に 1 人が経験しているというデータもあります。また、尿失禁には主に 2 つのタイプがあります。

1) 切迫性尿失禁：近年よく耳にする言葉に「過活動膀胱」があります。これは急に尿意を感じる（尿意切迫）病態ですが、重症化するとトイレまで我慢できずに漏らしてしまふことがあります。男性にも女性にも起こります。女性の場合は、膀胱自体の問題から発症することが多いのですが、男性では、前立腺肥大症が誘因となり、発症することがあります。

2) 腹圧性尿失禁：これは、尿を我慢する筋肉が弱くなるために生じ、尿道が短く括約筋（尿を止める筋肉）の力が弱い女性に多い病態です。女性では、出産も一つの誘因となります。通常の男性には比較的少ない病態です

■「男性尿失禁外来」の目的

男性の場合は、筋力面でも構造面（尿道が長く、屈曲している）でも比較的尿失禁にはなりにくいといわれていますが、前立腺肥大症の術後や、前立腺がんの治療として前立腺全摘術の術後に尿失禁が持続することがあります。特に前立腺全摘術後では、手術の際に尿道括約筋の一部や括約筋への神経線維を一緒に切除せざるを得ない場合が多く、この場合には女性と同じように括約筋の力が落ち、腹圧性尿失禁が起こります。手術直後は、多くの方で尿漏れが発生しますが、1 年後には 97%の方が日常生活に困らない程度に尿失禁が改善します。しかし、3%の方では尿漏れが十分に改善せずにおむつや失禁パンツが必要な状態が続くことが起こり得ます。

今回スタートさせた「男性尿失禁外来」では、この“術後合併症としての重度尿失禁”を治療することを主な目的としています。当外来では、人工尿道括約筋を用いた尿失禁を軽減する手術と、それに関連する診療サービスを提供することで、尿失禁の改善・治療を行っていきます。

■「人工尿道括約筋」の仕組み

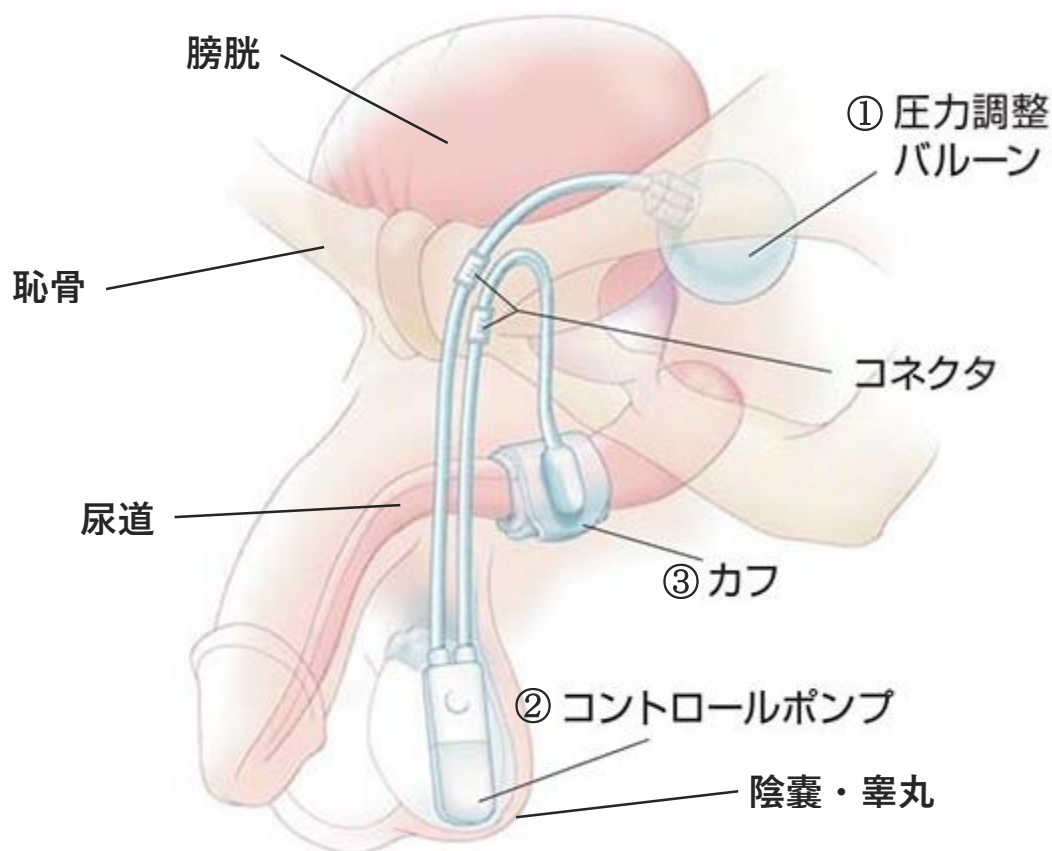
人工尿道括約筋は、主に 3 つの部分から構成された植込み型医療機器です。尿道周囲にカフ（小さなベルトのようなもの、次ページ③）を埋め込み、それを圧媒液で満たすことにより、尿道を締めて尿失禁を軽減します。排尿時にはカフの中の圧媒液を、圧力調整バルーン（同図①）に移動させて尿道周囲のカフを減圧し、通常の排尿ができるようにします。この操作は陰嚢に埋め込んだコントロールポンプ（同図②）をスイッチとして行います。排尿後（数分後）には、自然に尿道周囲のカフに圧媒液が移動し尿道を締めます。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田、畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2126 ファクス：072-804-2344 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp



■「人工尿道括約筋」の使い方

普段は圧力をかけてカフを締め付け、尿をためておきます。尿意を感じた際は、コントロールポンプを数回押すと、カフの圧媒液が移動し圧力が抜けて緩み、尿道が開いて排尿することが可能です。圧力を抜いてしばらくすると、圧力調整バルーン内の圧媒液がカフに戻り、圧力がかかって締め付けることで、尿道を閉鎖します。

■「人工尿道括約筋植込術（尿漏れ手術）」とは

人工尿道括約筋を、患者さんの体内に埋め込む手術をいいます。圧力を加えて尿の通り道を開閉するためのカフを尿道に巻き付け、圧力を調整するコントロールポンプを陰嚢に、圧力を伝えるための圧媒液をためておく圧力調整バルーンを膀胱前方に、それぞれ埋め込んでいきます。但し、下記の患者さんには適応できません。

- 1) 身体的（重度の心疾患など）又は精神的状態が理由で、麻酔も含む外科手術が不適切と判断された患者さん
- 2) 不可逆的な下部尿路閉塞又はその合併を原因とする尿失禁の患者さん

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田、畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

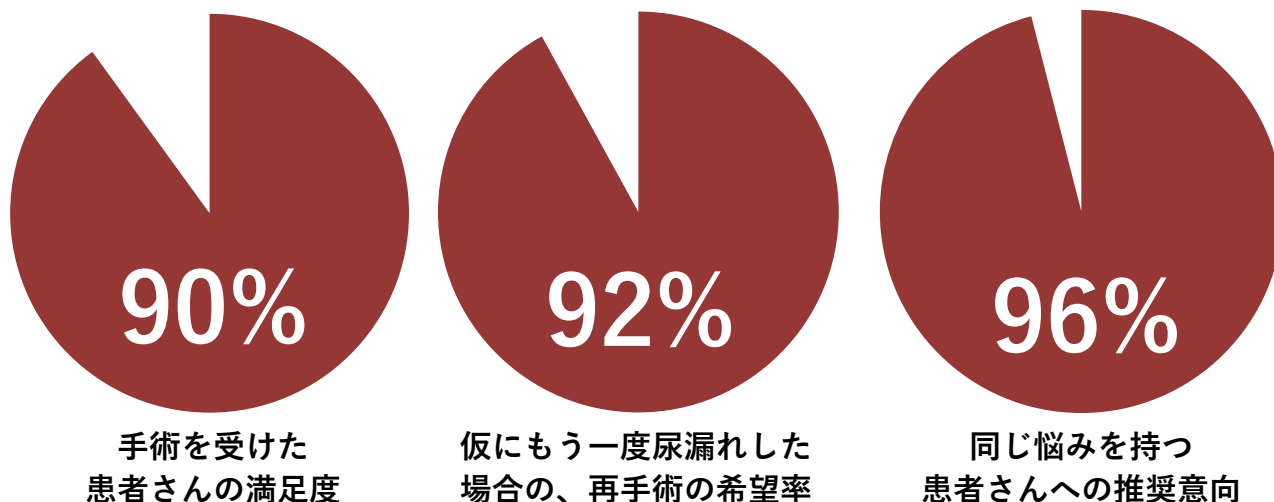
電話：072-804-2126 ファクス：072-804-2344 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

PRESS RELEASE



■「尿漏れ手術」経験者の満足度

過去に尿漏れ手術を体験した患者さんの満足度を、以下の通りご紹介します。



■「男性尿失禁外来」設置の趣旨

前立腺がんの罹患者は年々増加しており、近年は毎年約 9 万人が診断されています。そのうちの約 20,000 例で外科的治療が選択され、多くは手術支援ロボットを活用した前立腺全摘除術が行われているのが現状です。毎年 1,000 名程度の方が前立腺全摘除術後の尿失禁に悩んでおり、全体では約 10,000 名を超えと言われています。

そうした状況において、2012 年 4 月に保険適用された「人工尿道括約筋植込術」は患者さんの満足度も極めて高く（満足度約 90%）、同じ悩みを持つ患者さんに推奨したいという方も多い（約 96%）治療法です。また、高額療養費制度も活用可能で、患者さんの実質負担額は 10 万円前後。尿とりパッドやレグバッグといった他の手段と比較して満足度的にも経済的にも優れた治療法といえます。

しかし、現状尿失禁の患者さんに対して総合的な治療法を提示し、適切な診療判断を行える専門医は限られており、人工尿道括約筋の知名度も高くありません。その上、排尿に関して高度な診療サービスを提供できる施設も我が国に 30 程度しかなく、多くの医療従事者・患者さんが良い治療法を求めて悩んでいるといっても過言ではありません。

そこで本学附属病院は、前立腺全摘除術後の尿失禁に悩む患者さんを一人でも多く治療するため、日本で初めてとなる「男性尿失禁」を専門的に診療する外来サービスを導入することにいたしました。本学は引き続き、自分らしく生きる健康寿命の延長に向けて、様々な分野・診療領域において高度で安全・安心できる医療サービスを提供して参ります。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田、畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2126 ファクス：072-804-2344 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp